

WORK シート

『問いからはじめる教育学』●第 10 章 どんなふうにも子どもに接すればよいのか？

WORK ⑩

他者への応答の特徴をみつけ合ってみよう まず、2人で向かい合い、1つのお手玉でキャッチボールをしてみてください。それができたら、今度は、2人の人が向き合ったまま、それぞれの人が1つずつお手玉をもち、それを2人で同時に〈投げて—受け取る〉ということに挑戦してみてください（関矢、1984）。

相手をよくみて投げること、相手の投げたお手玉を受け取る準備をしながら投げること、互いに呼吸を合わせて投げ合うこと——これを同時にこなすことは想像以上に難しいことです。



うまく「投げて—受け取る」ことができたとき、あなたは、相手にどのような表情で、どのようなことばをかけましたか。どんな玉がとんできても「ナイスボール！」といって受けとれましたか。うまくいかなかったときは、どうでしたか。相手を責めてしまいましたか、それとも自分を責めてしまいましたか。「なかなかうまくいかないものだね……」と、互いに顔を見合わせ、はにかみ笑いをしましたか。周りで見ている人がいたら、その人たちは、どのような応答をしてくれましたか。一緒にふりかえってみてください。

あくまで遊びの世界で、自分の他者への応答の特徴（そのよいところ）をみつけ合ってみてください。

--	--